

2020年度 理事長所信

公益社団法人だて青年会議所
第40代理事長 寺島 大樹

スローガン

「風」

～だてはひとつを胸に進化しよう～

1 【はじめに】

2 1981年に、だてJCの前身である保原JCが設立され、急速に社会が変化していく
3 中、諸先輩方は様々な運動を展開し歴史を積み重ね、本年創立40周年という節目の年を
4 迎えようとしています。

5 社会情勢を振り返ると、1986年～1991年のバブル景気、その後バブルが崩壊
6 し、阪神淡路大震災、リーマン・ショック、東日本大震災など、災害と深刻なデフレで混
7 沌とした時代でした。産業の変化に目を向けると、第1次産業革命で水力や蒸気の新しい
8 動力による工場の機械化で世の中が大きく変わり、第2次産業革命で電気や石油を用いた
9 大量生産で成長し、第3次産業革命ではコンピューターを用いたオートメーション化が進
10 みました。近年の第4次産業革命ではデジタル技術の進展によるIoT、ビッグデータ、
11 AI、ロボットなどの新たな革命が進んでいます。狩猟社会から農耕社会、工業社会、情
12 報社会へ変化し、これから超スマート社会へとバージョンアップしていこうとしていま
13 す。また、考え方やお金に対する価値観も変化しており、生活するお金を得るために働く
14 ことから個々人の自己実現のために働く社会に、労働に対する対価から価値あるものに対
15 しての対価に変化してきています。

16 2025年に団塊世代は75歳以上となり、超少子高齢化、核家族化や老々介護がさら
17 に深刻化し超ソロ社会を迎え、家族や親族で支え合う自助も崩壊し、さらに、役所への依
18 存増大により公助も限界を大きく超えるでしょう。事なかれ主義、見栄えや体裁を整えて
19 おけばいい、というような現代社会の傾向から脱し、急速に変化していく時代の本質を見
20 極め、なすべきことをやらなければ衰退に歯止めをかけることはできません。

21 私たちが目指す明るい豊かな社会とはなにか。平和、幸福、豊かさとはなにか。若者が
22 集い議論し合うJCだからこそ、急速に変化していく社会的価値観などを敏感に感じ取
23 り、歴史に学び明るい未来に向けた風を吹かせ運動の波を起こしていく必要があります。
24 調査や社会実験を通して地域の課題解決に取り組み、個人が日々進化し会員の企業や商売
25 が発展し成長することで、地域社会の再建に貢献していかなければなりません。

26 【だて J C のブランディング】

27 例会には学びが多く、委員会には会員それぞれに役割があり楽しく、J C 活動にはメリ
28 ットがあり会社や生活の中で活かせる学びがなければ価値はありません。まずは、現状の
29 問題点を洗い出して課題を抽出し、どのような組織運営が必要なのか、だて J C の存在価
30 値はなにかを調査し、組織改革に取り組みます。そして、会員一人ひとりが日頃から品格
31 のある行動で、地域課題の解決に取り組んでいくことで市民からの好感度を上げていきま
32 す。さらに、創立 40 周年の節目として 5 年 10 年先にどんな未来を描くのか、V I S I
33 O N 2020 を策定します。草の根運動を続け他団体や市民などが、だて J C とパートナ
34 ーとして一緒に関わりたくなるように信頼を築き、だて J C のファンを増やします。

35

36 【創立 40 周年、今求められているまちづくり】

37 1981 年 4 月 25 日に日本 J C 常任理事会において、桃の香りただよう自然豊かな地
38 に、21 世紀の担い手として友情と信頼を基盤に勇気をもって苦難に向かい常に自己を磨
39 き新時代に相応しい地域社会の創始者たらんと誓い、日本 J C の一員となりました。会員
40 数 111 名でスタートした大型 L O M 保原 J C は、障害児援護、講座、バイオリンリサイ
41 タル、講演会など多くの事業を展開し、新設ながら福島ブロックのソフトボール大会やゴ
42 ルフ大会に優勝するなど大いに活躍しました。それから多くの方々に支えられ、40 年の
43 歴史を積み重ねられたことに感謝し、桃の香りただようだて J C らしい風を感じつつ、未
44 来に向けてワクワクするような追い風を多くのパートナーとともに起こしていきます。

45 良い事業の定義とはなんでしょうか。現在取り組んでいることはどのくらい社会に豊か
46 さを生み出しているのでしょうか。時代や地域特性に合った取り組みでしょうか。良い事業
47 とは持続性があり J C から手が離れても運動が広がっていく事業だと私は考えます。まず
48 は、調査を基に課題を抽出し仮説を立て基本に沿った正しいやり方で事業を構築します。
49 次に、今まで協働してきた行政や他団体とより良い関係を続け、さらに多くの団体などと
50 パートナーになり協力し合うことで、地域社会の健全で持続的な発展に資する事業を展開
51 します。そして、英知と情熱と力が集結した創始の心をアップデートし、S D G s を推進
52 するとともに、共通の価値観をもって多くのパートナーと事業を実施することで地域社会
53 の発展に貢献してまいります。

54

55 【市民とともに考える人材育成】

56 どのような市民でも全員に自分のできる役割があります。しかし、我慢することが少な
57 い過保護な環境で育ってきた現在の青年世代の多くは、地域課題に無関心で、直接的に関
58 係のないことに関しては、誰かがやってくれるだろうと考えているのが現状です。当事者
59 意識を醸成するには、まず、自分や家族など身近なところから豊かにすることを考え、次
60 に、近所や会社など少し広げた周りの豊かさも考え、さらに、少しだけでいいので知らない
61 他人にも手を貸せるよう、地道な取り組みをしなければなりません。このような能動的
62 市民へ意識改革をするために、どの年齢層にどのような運動を行うべきか調査や研究を行
63 います。また、市民の意識を変革するために、会員自らが能動的な市民となり周りの人へ

64 伝播させ、だて J C は時代に沿って地域をより良くする運動を作ることのできる人材を生
65 み出す組織へさらに進化していきます。その先に、世界で誰も経験したことのない超少
66 高齢化、人口減少の社会へ柔軟に対応し率先して行動できる人材が育ち、多くのパートナ
67 ーとともに誰一人取り残さない平和で明るい豊かな地域を創造していくことができます。

68

69 【 J C のイメージ改革と会員拡大】

70 家族や友人に、だて J C はどのようなことをしている団体か聞いたことがありますか。
71 市民はどのようなイメージをもっているのでしょうか。我々が目指している理想と比較して
72 どうでしょうか。核家族化により自分たちの生活で精一杯な世帯が増え、会員世代の立場
73 や環境も変化し、遊びも趣味も多様になり選択肢が膨大したことで、地域社会への参画や
74 貢献よりも家族や個人のプライベートな時間を大事にする人も増えています。そのような
75 時代だからこそ、 J C は社会を動かす存在でなければなりません。まずは、風通りが良く
76 チームワークのある活発な委員会活動ができるように支援をします。そして、社会から求
77 められていることはなにか、 J C がやらなければならないことはなにかを追求し、他団体
78 との違いや J C の理念や特徴をしっかりと学びなんのために運動や活動をするのか、基本
79 をしっかりと身に着けます。さらに、会員個人が成長するためにビジネスマナーやセレモ
80 ニーの意味などを理解し品格を磨き、ビジネススキルの向上や人間力の向上に資する活動
81 にも取り組みます。 J C に所属すると人材が育ち社業発展の礎となるイメージを作り、持
82 続的な会員拡大へ繋げます。また、 SNS など時代に沿った広報をしていくことでだて J
83 C の認知度を上げ、運動の輪を広げます。

84

85 【結びに】

86 なすべき貢献とはなにか。その問いの答えを出すためには、状況がなにを求めているの
87 か、自己の強みや価値観からいかにして最大の貢献をなしうるか、世の中を変えるため
88 にはいかなる成果を具体的に上げるべきか、この 3 つの要素を考えることが必要であるとド
89 ラッターが説明しています。立派な企業経営者が余力をもって J C 活動をしていた時代も変
90 わり、今日の経済環境の下では負担になる慣例が多く、それが敬遠する理由となる場合も
91 あります。 J C のあり方自体を問われている今、求められているのはなにか、本質を追求
92 し目的を明確に持ち、強みや価値観を理解し知識を深め具体的な成果を上げるために、時
93 代に即した組織改革を果たし個人の成長と地域社会の発展に貢献します。

94 2020 年度は東京オリンピックが開催され、年度末には相馬福島道路が開通するな
95 ど、人やモノの流れも大きく変化します。福島ブロックから初めて会頭を輩出し、だて J
96 C からは初めてブロック会長を輩出するなど、いまだかつてない経験ができる年になりま
97 す。新しい風が吹き脚光を浴び大きな節目を迎える今だからこそ、先入観を捨て仲間を信
98 じてチームワークを大切にし、それぞれになすべき貢献を果たし、軌跡を紡ぎ奇跡を起こ
99 そうではありませんか。